

日本語独自の構造メタファーについての1考察

—日本語学習者の作文における言葉の誤用から—

前川 美和

1. はじめに

ある地域で話される言語は、その土地の人々の考え方や文化とは切り離して語れないものであると言われて久しい。それに関して、ウォーフ(1993)はアメリカインディアンのホーピ族の言語を西欧のそれと比較して興味深いことを述べている。つまり、ホーピ族は過去、現在、未来へと一定方向に流れていく「時間」という概念を持たないため、彼等の言語には「時制」が存在しない。さらに、西欧社会でのように時間を客体化することによって量的なものや捉えたり、時の流れを同じ長さに区切って行くことによって生じる繰り返しというイメージを持つこともないというのである。

また、西洋哲学でいうところの「客観的（絶対的で無条件の）真実」の存在を否定し、真実とは様々なメタファーによってそれぞれの切り口で描写されたものが統合されたものだとするレイコフ・ジョンソン(1986)はいくつかのメタファーを紹介するとともに、メタファーというものはある文化の中で徐々に作り上げられてきた概念であるから、文化によって異なるものだと述べた。そうだとすれば、わたしたちが発話したり文章を書いたりする際に生み出す1つ1つの文にはわたしたちの文化によって育まれた独自のメタファーが反映されているはずである。

この観点から日本語を学ぶ留学生達の作文に見られる語彙に関する誤りを見ると、その文脈に合った日本語らしい語彙を選ぶことのできない背景には日本文化の持つメタファーと彼等の母国文化の持つメタファーの違いが関係しているのではないのかという疑問が浮かんできた。そこで、日本の文化に特有な構造メタファーが存在し、それが日本語独特の言葉の共起性を促しているために日本語学習者の語彙選択を難しくしているのではないかという仮説を立てた。

具体的には、学習者達の様々な語彙の間違いの中から「個性」に関する誤用に

注目し、その類語である「才能」「素質」も加え、「個性」「才能」「素質」の3語がどのような動詞と共起するのかを日本文学・外国文学作品の中から取り出した。また、より現代的な使用例を得るため Google で3語をキーワードに検索してヒットした結果を基にして動詞文を拾った。そこからどんなメタファーが存在するのか考察し、この3語に相当する中国語や韓国語の名詞がどのような動詞とともに使われるのかも探ってみた。

2. 「個性」「才能」「素質」の持つメタファー

[1] 学習者の誤用

作文のテーマが多岐に渡っているため、学習者の語彙の誤用はあまり重なることはないのだが、たまたま「個性」を含む文で誤用が2つ見付かった。

*十分に遊んだら、こどもの個性がよくなると思う。(中国・男)

*学生は健全に個性が発展させると思う。(台湾・男)

どちらも「個性」がよい方向に変化するという意味で「良くなる」「発展させる」という動詞が使われているのだが、日本人ならばどちらの文でも「伸びる」という動詞を使うであろう。ところで、この「伸びる」という動詞は高さや長さが増すときに用いられるのが普通である。それにもかかわらず、高さや長さとの関係のない「個性」という語とも共起するということは、人間に内在する能力を表す言葉と共起する動詞には何らかの特徴があって、そこに日本語独自のメタファーがあるのではないかと考えた。そこで、「個性」「才能」「素質」の3語を『新潮文庫100冊』と Google で検索してみた。

[2] 検索結果

『新潮文庫100冊』を対象にして検索ソフトで「個性」「才能」「素質」を検索したところ、「個性」は101件、「才能」は256件、「素質」は56件ヒットしたが、その中で動詞とともに用いられているものを取り出した。また、Google でターゲットの3語をそれぞれキーワードにして検索し、出現順にその語を含む動詞文を50例ほど拾い出した。このようにして集められた文の中から主なものを動詞の意味を考慮しつつ、いくつかのグループに分けて引用する。

(01) 各人に個性があることは誰も知っている。(『人生論ノート』)

- (02) 独特の個性を持ったスターたちの記憶が残っているだけである。(『風に吹かれて』)
- (03) 目鼻立ちはギリシャ彫刻のように美しく整っているが、個性がない。(『赤と黒』)
- (04) あなたは天性の才能が備わっているんだから。(『山月記』)
- (05) 並々ならぬ興味と才能を有していた。(『楡家の人々』)
- (06) 喧嘩の素質だけがあるらしいなんて困った子だ。(『あすなる物語』)
- (07) 卓越した才能をお持ちの方 (Pasona Inc.2001 ワークスタイル働き方大事典 PASONET <http://www.pasonet.ne.jp/workstyle/skill/8/9/2005>)
- (08) X-TYPE は成長を期待できる素質を備えていると思うのだ。
(読売新聞 @CAR インプレッション YOMIURI ON LINE
<http://www.yomiuri.co.jp/atcars/impression/mihori-xtype.htm> 9/2005)
- (09) 多数を相手にすると調子よく才能が発揮できた。(『人民は弱し、官吏は強し』)
- (10) ついに創造的な才能を現してそれを思いついた。(『楡家の人々』)
- (11) 同郷のこともあったが、院長は以前からナオの素質を見抜いていたのである。(『楡家の人々』)
- (12) 偽装U A で熱烈に個性を出すブラウザ
(<http://1116.org/nori/archives/000941.html> 8/5/2005)
- (13) あなたの才能を引き出します。(what kind of ability do you have?)
<http://www.002upp.so-net.ne.jp/takaoka/ability.htm> 8/9/2005)
- (14) 牧場期待の素質をようやく実戦の場で披露してみせました。
(ビッグバイアモン平成 8 年ラジオたんぱ賞 2002 6/28 <http://www.jra.go.jp/videointeractive/bu/yusyo-bigbaiamon.html>8/5/2005)
- (15) あなたもやはり個性を尊重するという立場をとっているんですね。(『処女懐胎』)
- (16) 外国に来ている有名な声楽家にその才能を見とめられて(『あすなる物語』)

- (17) 軍事的才能を高く買って抜擢につぐ抜擢をこころみてきた。(『国盗り物語』)
- (18) 先生の才能を惜しんでいるのだ。(『花埋み』)
- (19) 彼の研究者としての素質および業績を高く評価した(『若き数学者のアメリカ』)
- (20) 自分を抑えて女らしい女になっても個性を損なってしまっは何にもならない。(『新源氏物語』)
- (21) 1人ひとりの個性を尊重し生きる力を育む。(TAKENAKA CORPORATION 2003 竹中の中学校作り
<http://www.takenaka.co.jp/school-i/point/01/index.html> 8/5/2005)
- (22) ビッグバイアモンは素質を買われ、ツクバシンフォニーに次ぐ2番人気の支持を受けました。(ビッグバイアモン平成8年たんぱ賞 2005 6/28
<http://www.jra.go.jp/videointeractive/bu/yusho-bigbaiamon.html> 8/5/2005)
- (23) ホームズのきわめて多分に持つ特殊な才能を駆使するほどの余地もなく、(『オレンジの5つ』)
- (24) 己のもっていた僅かばかりの才能を空費してしまった。(『山月記』)
- (25) 信長は光秀の才能を酷使した。(『国盗り物語』)
- (26) まことに如才なくこの才能を利用する女だった。(『月と6ペンス』)
- (27) 男女の自立と個性を活かせる社会を形成する。(柏市役所 市民との協働
かしわシティーネット <http://www.city.kashiwa.chiba.jp/machiplan/4skei/kyo3.htm#TOP>8/9/2005)
- (28) 才能を生かせる心理学 (study.jp eラーニング学習講座本部 2004-2005
<http://www.study.jp/school/C-BKANO1002> 8/9/2005)
- (29) 人間には1人ひとり素質があると思う。その素質をどう生かしていける人に育ててあげられるか。(FC2 2004 最上充晴 開運!どんどんツキがつく方法 <http://m.saijou.blog10.fc2.com/blog-enter-138.html> 8/9/2005)
- (30) 新しいいきいきと脈うつ個性が部屋じゅうにあふれた。(『赤毛のアン』)

(01)から(08)までで「個性」「才能」「素質」とともに用いられている動詞をみると、自動詞では「ある」「ない(「ある」の否定形の普通体と捉える)」「備わる」、他動詞では「持つ」「有する」「備える」となっている。ここで考慮に入れておかなければならないのは、池上(1981)、安藤(1986)が指摘しているように、ナル的な日本語は英語などのアル的な言語では「持つ」と所有表現するところを「ある」というふう存在表現することから、「個性」「才能」「素質」に関しても「持つ」「有する」という表現と「ある」「ない」という表現が用いられているということである。ここに挙げた動詞をとる「個性」「才能」「素質」の3語は人間という容器の中に存在する内容物と捉えられている。

また、(09)から(14)の動詞をみると、「発揮する」「現す」「出す」「披露する」のように自らが中にあるものを表出する場合と、「見ぬく」「引き出す」のように第三者が相手の中にあるものを捉えたり、出させたりする場合があるが、いずれも「個性」「才能」「素質」なるものが普段は外からは見えない状態で存在していることが仄めかされている。

その内容物については、(15)から(22)の動詞、「尊重する」「見とめる(認める)」「評価する」「買う」「惜しむ」「損なう」を見ると、価値が付与されたものであることが明らかである。さらに、(23)から(29)に挙げられた文中では「生かす(活かす)」「利用する」「駆使する」「酷使する」という動詞とともに使われていることから、「個性」「才能」「素質」は道具としての特徴を備えていることがわかる。

これまでの引用文から、「個性」「才能」「素質」は「人間という入れ物の中にある内容物である」という「存在メタファー」を背景に持ち、その内容物に「価値」が備わり、「道具」としての性質が与えられている。また、(30)で用いられている動詞「あふれる」を見ると、「量的なもの」という見方が付与されている。以上より、「『個性』『才能』『素質』は資源である」という構造メタファーを持つと言えるのではないだろうか。

さらに、引用文を挙げて、他のメタファーを持つことを示していきたい。

(31) 先ず自己の個性を発見すること。(『人生論ノート』)

- (32) 運命の女としての個性をふたたび見出すつもりでいた。(『悲しみよこんにちは』)
- (33) 学問をすることも才能を磨くこともそれが今後の人生計画であるという意味では打算の性質を持っている。(『青春の蹉跎』)
- (34) せっかくの才能をそのまま埋めてしまうのは惜しい話だが、(『山月記』)
- (35) そのためにはあなたの個性を創造的に磨く必要があります。(札幌大学能力開発センター長 半田祐司 個人創造の意味するところ 平成17年度ガイダンス札幌大学能力開発センター
<http://www.sapporo-u.ac.jp/nokai/01.html> 8/6/2005)
- (36) クイズ感覚のテストで絵の才能を発見できる。(nejire 2004-2005 絵の才能を発掘 2004 11/8 ひろぶろ
<http://blog.livedoor.jp/stardom/archives/9038458.html> 8/9/2005)
- (37) タレント(素質)の発掘によって素質のある人を選び、その人に効果的なトレーニングをしてチャンピオンをつくるプロジェクトもあります。
 (河合美香のストリートサイエンスチェック 8/9/2005)
- (38) せっかくすばらしい素質を持っているのにそれに気付かず眠らせたままにしたり、輝くための場所を知らずにいるのはもったいないと思いませんか
 (koseibunseki 2003
<http://www.koseibunseki.com/koseibunseki.htm>
 8/1/2005)

(31)から(38)の動詞に着目すると、「発見する」「見出す」「磨く」「埋める」「発掘する」「輝く」となり、「発見する」「見出す」「埋める」「発掘する」に関しては「普段は外に現れない状態で存在している」という前に挙げたメタファーとも重なるのだが、それに「磨く」「輝く」が加わると、もともと存在はしているのだが、だれかが探し出して磨いて輝いてくることから、「『個性』『才能』『素質』は宝石の原石である」という構造メタファーを持つことが見えてくる。次に、最後の構造メタファーを紹介する。

- (39) そのために幾つかの才能の芽が自分の中で立ち枯れになった。(『砂の上の植物群』)
- (40) その事件が瀬央さんの才能を開花させる何かのきっかけになった。(『エディプスの恋人』)
- (41) 貴女は思うとおり貴女の才能を伸ばせるのです。(『花埋み』)
- (42) 才能が一気に花開いたようである。(『花埋み』)
- (43) 容易に目覚めなかった才能が芽を吹き(『車輪の下』)
- (44) 1人ひとりの才能を伸ばし創造性に富む人間を育成する。一律主義を改め個性を伸ばす教育システムを導入する。(教育改革国民会議 平成 12 教育改革国民会議報告 平成 12 12/22 <http://www.kantei.go.jp/jp/kyouiku/houkoku/1222report.html> 8/5/2005)
- (45) 1人ひとりの個性を育むため、公立小中学校で小人数学級を実施します。(東京都 2000 政策目標 東京構想 2000 概要版 <http://www.chijihon.metro.tokyo.jp/keikaku/2000gairo/5kakuron/k4.htm> 8/5/2005)
- (46) 菊花賞の主演としてこれから素質を開花させようとしていたビッグバイアモンですが、(ビッグバイアモン平成 8 年ラジオたんぱ賞 <http://www.Jra.go.jp/videointeractive/bu/yusho-bigbaimon.html> 8/5/2005)
- (47) 素質に優劣はありません。そして素質をどう育てていくかによって個性が生まれます。(koseibunseki 2003 個性分析とは。
<http://www.koseibunseki.com/koseibunseki/koseibunseki.html>8/5/2005)
- (48) 才能というのは不思議なもので、かすっていても伸びずジャストミートしたときに一気に花開くという特性があるようです。(NIFTY corporation 2001 Editor's Message 知恵市場コミトン http://www.nifty.com/chieichiba/f-weekly/2005_2/21_1942_D20_tokubetsunasainou.html 8/9/2005)
- (49) その素質をどう伸ばしてあげられるか。(FC2 2004 最上充晴 開運! どんどんツキがつく方法 http://m_saijou.blog10.fc2.com/blog-enter-138.html 8/9/2005)

(39)から(49)で使われている動詞は「開花させる」「伸ばす」「花開く」「育む」「育てる」「伸びる」、また、「芽」という名詞とともに用いられ「芽が立ち枯れになる」「芽を吹く」となっている。自動詞で用いられるのと他動詞で用いられるのではニュアンスが違ってくるのだが、植物が芽吹いて、枝を伸ばしながら、大きく伸びて育って行って、最後にきれいな花を咲かせる過程が浮かんでくる。つまり、「『個性』『才能』『素質』は若い植物である」という構造メタファーが現れてくる。

以上の検索結果から、「個性」「才能」「素質」の持つメタファーが導き出された。

(A)「個性」「才能」「素質」は資源である。

そして、(A)に含まれるような形で、

(B)「個性」「才能」「素質」は宝石の原石である。

(C)「個性」「才能」「素質」は若い植物である。

という2つの構造メタファーが存在している。これらのメタファーが重なり合い、日本語の「個性」「才能」「素質」の3語を形作っているようである。

この3つのメタファーの妥当性を調べるため、「個性」「才能」「素質」の類語と考えられる「資質」「能力」「特性」についても動詞を含む例文を挙げてみる。

(50) 金がなくても、学問に対する情熱があり、資質もある学生に対しては、

(『太郎物語』)

(51) もともと大学で学問を学ぶ資質のない者が多過ぎるのだった。(『若き数学者のアメリカ』)

(52) 子どもたちの「資質」や「能力」を育てること (月刊初等理科教育 2001 2月 <http://www.ruralnet.or.jp/rika/r0102html4/6/2006>)

(53) 強い適応能力を利用して、競争圏外にのがれた生き物たちだ。(『砂の女』)

(54) どんな人間であれ、その能力を見出すことに秀でている基一郎は、(『榆家の人々』)

(55) 自己啓発があなたの能力と財力を飛躍的に伸ばす。(能力開発ナビゲータ 2004 <http://noukai-navi.com/4/6/2006>)

(56) 我々は当地における少数民族でありますから、男女共によくその特性を発

揮する任務があると思います。(『太郎物語』)

(57) すばらしい語学の才能、その他さまざまの特性はしばしば過大に評価された。(『古代への情熱』)

(58) ニコチンの特性を生かした神経系疾患向け合成薬 (HOTWIREDJAPAN 9/9/2005<http://hotwired.goo.ne.jp/news/technology/story/200509143034/7/2006>)

以上の例文に用いられている動詞に注目してみる。「個性」「才能」「素質」と同様、存在を意味する「ある」「ない」、外からは見えない状態であるという「見出す」「発揮する」、価値あるものを示す「評価する」、道具であることを示す「利用する」「生かす」、若い植物を指す「育てる」「伸ばす」が使われている。残念ながら、「磨く」という動詞との共起は見られなかったが、「資質」「能力」「特性」も資源であり、若い植物である。この事実によって、「個性」「才能」「素質」に関して提起したメタファーの正当性がある程度示されたと思う。

[3] 検証テスト

『新潮文庫 100 冊』と Google による検索から日本語の「個性」「才能」「素質」の 3 語は(A)(B)(C)の構造メタファーを持つことがわかったが、これらのメタファーが日本語独自のものであるかどうか探りたいと思い、日本語を学んでいる中国、台湾、韓国の学生に協力してもらって、検証テスト(付録に収録)を行った。「個性」「才能」「素質」を含む文で、動詞の部分を空白にしておいて、学生達に適当だと思う動詞を自由に入れてもらった。対象としたのは、日本語を一年以上学んでいて日本語能力試験の一級合格を目指している学生で、台湾人 26 人、香港人 3 人、中国人 10 人、韓国人 16 人である。辞書を用いず答えを書くように指示した。分からなければ、空白のまま残しておいても可とした。

[4] 検証テストの結果考察

設問 1 と設問 3 の「個性が」と「素質が」に続く動詞を入れる問題は、主体が個性や素質を持っていることをどう表現するかを問う設問である。中国語を

母語とする学生も韓国語を母語とする学生も大半が「ある」「ない」という存在表現を使っている。また、「いい」「悪い」「劣る」「優れる」といった形容詞や形容詞的動詞を用いて評価を表したり、「ない」の代わりに、本来は有しているのだが外に「現れていない」「隠れている」という表現をいれた中国の学生が5人いたのが特徴的である。後日学生に聞くと、中国語でも韓国語でも「個性」「才能」「素質」に対しては「ある」「ない」という動詞がよく使われるということであった。

設問3の「国民も彼の素質を」に続く動詞には、「認める」、「評価する」など、第三者がある人物の持つ素質の価値を判断するという意味の動詞を求めた。ここで、「認める」「評価する」「肯定する」というような価値を是と捉える動詞が書かれていたことから、中国語や韓国語にも同じような表現があると思われる。

設問5の「語学の才能を」のあとには、「発揮する」、「現す」など、才能を持つ人間がその能力を外に現すという意味の動詞を期待した。実際には求めている表現の「発揮する」が3人、「現す」が5人、「見せる」が1人、「認められる」が3人いたが、「持つ」と答えた学生のほうが多かった。与えた例文の解釈の仕方でいろいろな動詞が出てくるが、内在する力を外に見えるようにするという点で見ると、中国語、韓国語とも同じ表現があるらしい。学生達の話では、両言語において「発揮する」という言い方が一般的に用いられるそうである。

設問4の「息子は今その才能を」のあとには、「生かす」、「活かす」など、才能を持った人がそれを道具として活用するというような動詞を期待した。中国からの学生も韓国からの学生も「生かす」を書いた人が多かった。既習の動詞であるとともに進学の志望動機などでよく使うので定着しているのかもしれない。中国の学生は「利用する」「使う」「応用する」といった言葉も書いている。辞書を見ると、中国語では「才能を生かす」の「生かす」は「地下鉄を利用する」「地位を利用する」と同じ動詞である「利用」を、「人を殺さず生かす」場合は「活命」を使役にして用いるようだ。一方韓国語では「才能を生かす」も「人を生かす」も同じ動詞の「」を用いることから日本語に近いようである。

設問 2 の「個性を()教育」、設問 4 の「息子の絵の才能を()くれた」の括弧にはある人物の中に個性なり才能なりを見つけた側がそれをよりよいものにしていくことを表す動詞を求めた。日本語では「伸ばす」「育てる」「育む」などの動詞が入るところだが、中国の学生は「個性を」のあとに「高める」「育てる」よりも「分ける」「区別する」と書いた人が多かった。各人の個性に合わせた教育という意味なのか、もっと個性を際立たせる教育という意味なのかははっきりしないが、日本語では出て来ない動詞ではある。また、「息子の絵の才能」の後には 10 人が「教える」という動詞を入れている。才能を教えるものと捉えているのはおもしろい。韓国の学生はどちらの場合も「生かす」を使う傾向にある。辞書を見ると、中国語では「個性を伸ばす」は「増長」「提高」を用い、「木が枝を伸ばす」は「伸出」、「勢力を伸ばす」は「拡張、伸張」、「生産を伸ばす」は「発展、拡大」というふうに異なる熟語を当てている。学生の話によると、「枝を伸ばす」というような場合は「長くなる」という表現を用い、「才能を伸ばす」という場合は「展現」という動詞を用いる為、「伸」という語はいずれの場合も使わないそうである。韓国語でも「髪を伸ばす」は「」、「才能を伸ばす」は「」と異なる動詞を当てている。韓国の学生はこの場合も「伸ばす」よりも「生かす」という動詞を用いることが多いと語っていた。「育てる」という言葉については中国語で「才能を育てる」の動詞は「培養」を用い、「花を育てる」は「養」という字だけを使うようだ。韓国語では「子を育てる」は「」、「苗を育てる」は「」、「若手選手を育てる」は「」というように目的語によって動詞が異なっている。

設問 4 の「先生は息子の才能を」に続く動詞としては第三者がある人物の才能に気付く、見つけるという意味のものが来るのだが、少し用いる場が異なる「発見」を書きこんだ学生が中国、韓国各 5 人ずついた。中国の学生に日本語にはない「発現」を使った人が 8 人もいた。辞書によると、中国語では「ニュートンが万有引力を発見した」も「癌の早期発見」も「才能を見出す」も「発現」を用いるようである。

設問 5 の「さらにその才能を」の後には自分の持つ才能を自分でよりよいも

のにレベルアップするのを意味する動詞を求めた。韓国の学生 2 人が「磨く」を書いてしたが、あとの学生は「高める」「伸ばす」「アップする」などを使っている。辞書を見ると、韓国語では「靴を磨く」も「歯を磨く」も「才能を磨く」も日本語と同様に同じ動詞「磨く」を用いる。一方、中国語では「靴を磨く」は「擦」、「歯を磨く」は「刷」、「技を磨く」は「練」というふうにするらしい。学生の話では中国語には「磨練」という言葉があるが、これは「根性」に対して用いられるもので、「才能」などとは用いられないらしい。

設問 5 の最後、「彼女の語学の才能は」にはある人物の持つ才能が最終的にみんなに認められる形で勢い良く表出するような動詞を期待した。中国からの学生にも韓国からの学生にも「開花」のニュアンスを持つ動詞を入れた人はいなかった。中国の学生は「活用する」「生かす」「役立つ」が多く、感覚的には理解できる「爆発」「暴発」「達する」なども使われていた。韓国の学生には「輝く」と書いた人が 3 人いたのが興味深い。後で聞いた話では、中国からの学生も韓国からの学生も「才能が開花する」という表現には違和感をもったようで、このような表現は絶対しないと笑っていた。

[5] まとめ

中国語でも韓国語でも「個性」「才能」「素質」に対して、存在を示す「ある」や「ない」、普段は外からは見えない状態であることを暗示する「発揮する」や「現れる」、更に価値を有していて、それを測定できることを表す「評価する」や「認める」、また、道具であることを意味する「生かす」や「利用する」などが共起していることから、先に挙げたメタファー (A) 「『個性』『才能』『素質』は資源である」を持つことがわかる。

メタファー (B) 「『個性』『才能』『素質』は宝石の原石である」に関しては、中国語と韓国語で少し異なる。「見出す」という意味での「発見する」は両言語にあるのだが、「磨く」については韓国語には同じような使い方があるが、中国語では「磨」がつく語はあるが、「才能」などには使われていないようである。

最後にメタファー (C) 「『個性』『才能』『素質』は若い植物である」について検証したい。このメタファーは「才能」「個性」「素質」を自己が努力しより良

いものにして行くと同時に、第三者がそれを見出し、植物にとっての水や養分に当たる知識やトレーニングなどの刺激を施して大切に世話をして成長を助け、その結果として「花を咲かせる」ものだと捉えているわけで、知識やトレーニングを与えるところだけを捉えると「教える」と繋がるのだが、「教える」のように教える側が生徒に向かってゼロから知識を注入するイメージとは違って、各人の中に潜在している力をいかに顕在化し結実させるかが問題となっているのである。中国語においても韓国語においても、このような意味合いでの「伸ばす」や「開花する」という動詞の使い方はないようで、「才能」「個性」「素質」それ自体を命を持つ有機的な存在として考える見方が希薄なような気がする。

地理的に近いアジアの言語である日本語、中国語、韓国語であるが、異なる構造メタファーを持つことが分かっておもしろかった。1つの物事の捉え方が違えば、共起する動詞も当然変わってくる。その背景に各々の国の持つ風土や歴史があると思うのだが、それは一体何なのか興味はつきない。

謝辞

本研究を実施し、まとめるにあたって、関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科の嶋村誠先生にデータ収集から考察に至るまで様々なアドバイスを頂きました。また、関西外国語専門学校の留学生の皆さんには実験やインフォーマントとして協力して頂きました。心から感謝致します。

参考文献

- 林四郎、野元菊雄、南不二男、国松昭(編) (2001). 『改訂版新日韓辞典 (例解)』 (第5刷). 東京: 三省堂.
- 倉石武四郎、折敷瀬興(編) (1991). 『岩波日中辞典』 (第11刷). 東京: 岩波書店.
- 金田一京助、柴田武、山田明雄、山田忠雄(編) (1989). 『新明解国語辞典』 (第4版). 東京: 三省堂.
- 渡部昇一、楠瀬淳三、下谷和幸(訳) (1986). 『レトリックと人生』 東京: 大修館書店.
(G. Lakoff, & M. Jonson, 1980, *Metaphors we live by*. Chicago: University of Chicago Press.)
- ウオーフ, B. L. 池上嘉彦(訳) (1993). 『言語・思考・現実』 講談社学術文庫. (Whorf, B.L. 1956, *Language, thought, and reality*. Cambridge, MA: MIT Press.)
- 池上嘉彦 (1981). 『「する」と「なる」の言語学—言語と文化のタイポロジーへの試論—』 東京: 大修館書店.

安藤貞雄 (1986). 『英語の論理・日本語の論理』東京：大修館書店.